

制作概要

巻き物や屏風折りの集印帳など日本に古くからある書物の様式のなかには、連続した画面を表現するのに適したものがある。

外国の絵本にも屏風折りの技法を用いたものがまれにみられるのだが、かねてより私は、日本古来の書物の様式を本格的にそのまま採り入れた純和風の絵本を試作してみたいと考えていた。幸いに今年度（平成18年度）の本学特別研究助成金の交付を受けて、これまで空想していた計画を描いながらも実現することができたのは、私にとってこの上もなくうれしいことである。

研究試作の絵本は純和風な様式にこだわったため、布張り型押しの厚表紙と二重に貼り併わされた中身の和紙が表紙のサイズに合わせて屏風折りとなって横に長く続いている集印帳と同様の製本方法を採用した。

中身の描画は硯で擦りおろした墨一色とし、3種類の毛筆で描いている。

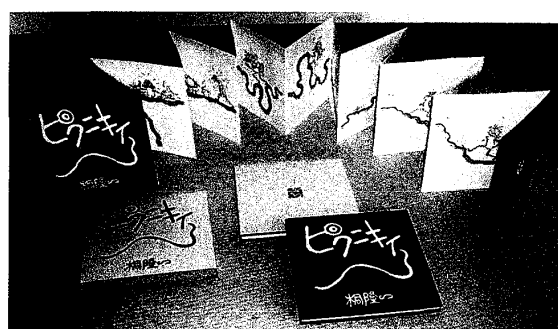
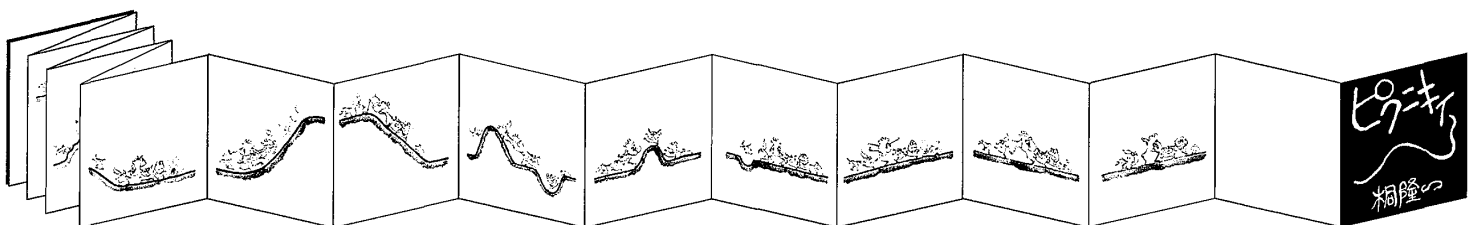
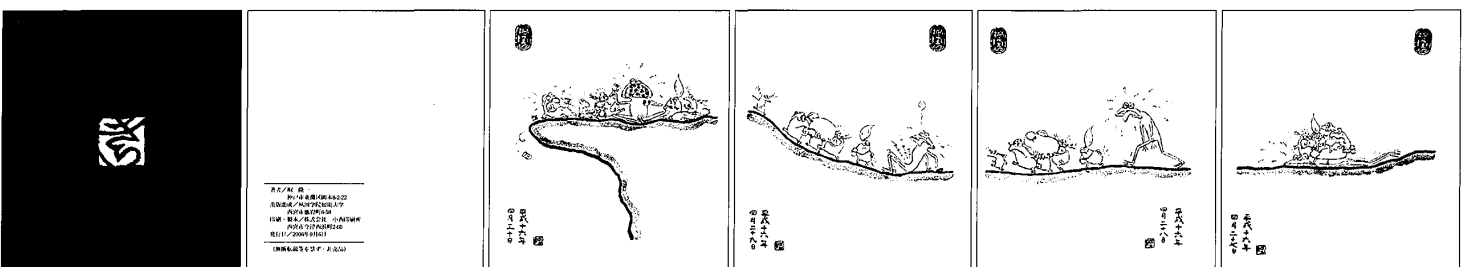
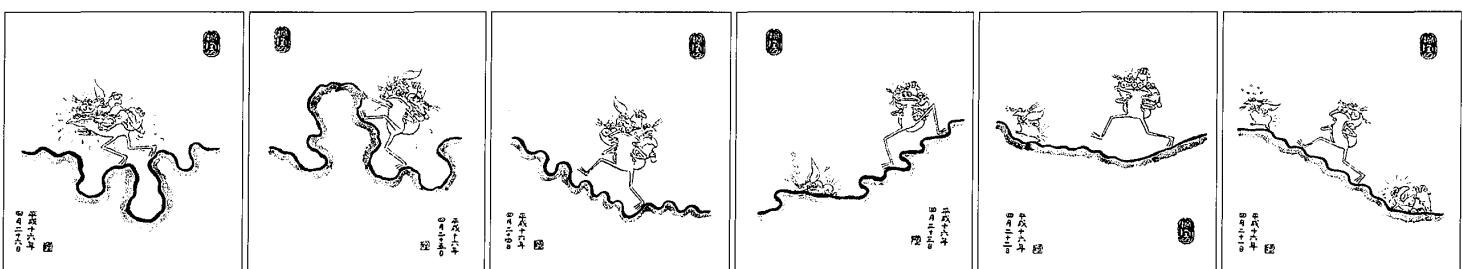
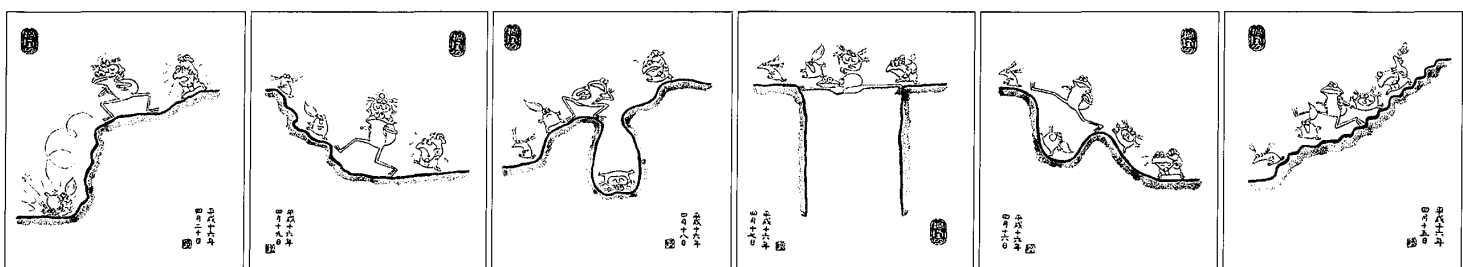
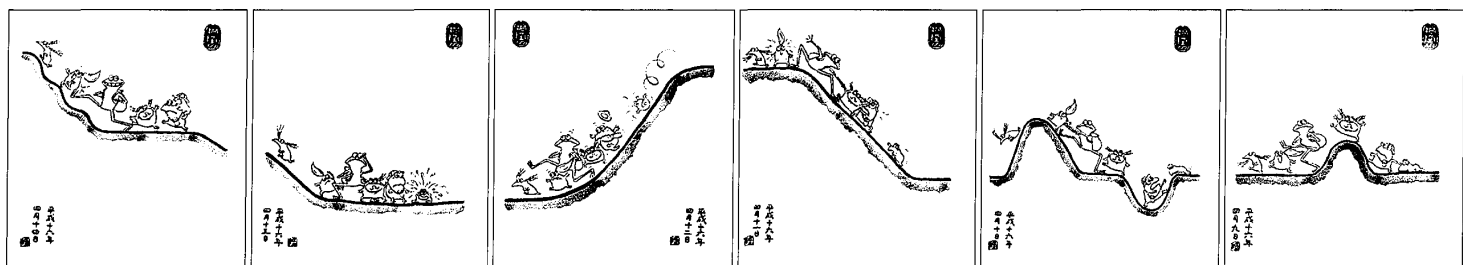
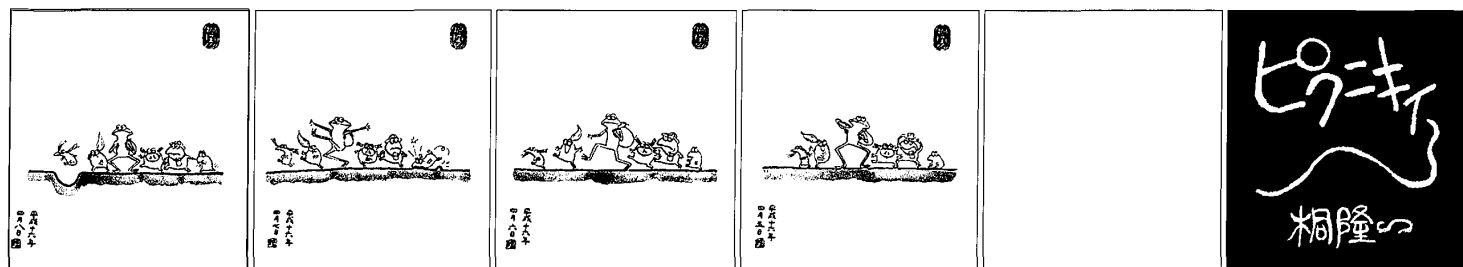
なお絵本の連続する各場面の原画は平成16年4月5日から30日にかけて色紙大の和紙（別漉画仙紙）に毎日一枚ずつ描いたもので、今回それを一部修正および追加して編集した。

いわゆる一般的な絵本とは異なる部分があるところもあったので、試行錯誤を繰り返したが、印刷・製本に当たり協力頂いた株式会社小西印刷所のご好意に感謝したい。

桐 隆一

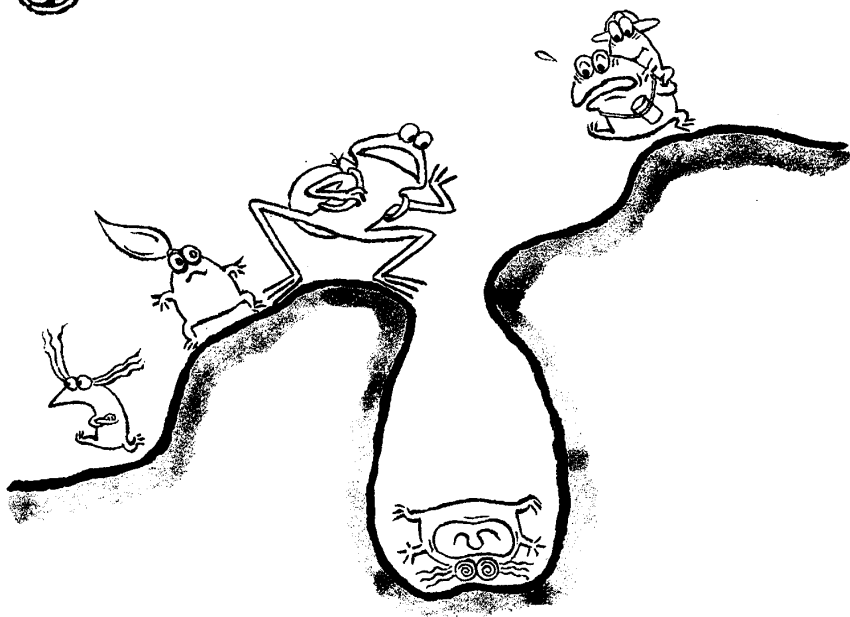
和風絵本の試作「ピクニキ〜」

（特別研究助成金交付作品）

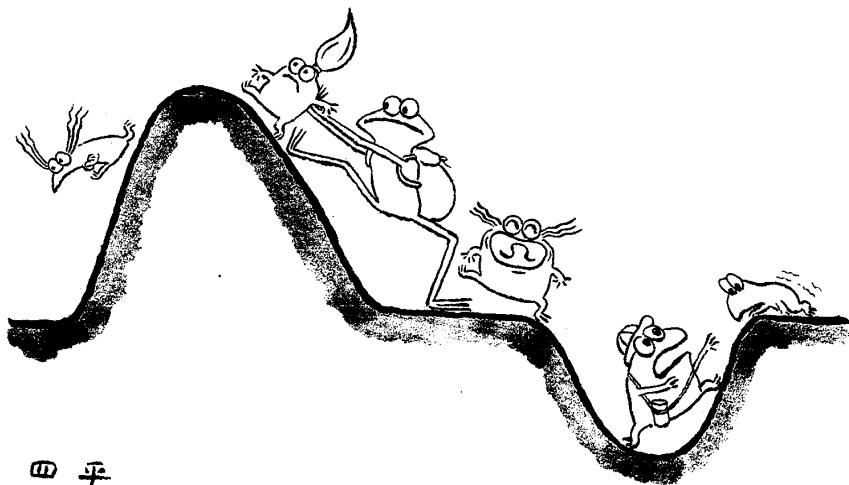


屏風折り画面の特徴を生かすため、道を基底線として次の画面と連続的に関連付けつつ変化させていくことで、全体がひとつに繋がったシンプルな絵本となることを意図した。

各画面には6ひきのそれぞれまったく異なったキャラクターのカエルたちの微笑ましいユーモラスな道程を描いているが、読み手の想像力が自由に広がってほしいので物語の文章は除外した。また、各頁の原画は制作月日を日記風に記し、落款を押印したものであるが、編集過程でモノトーンの印刷効果と読み手の視線の誘導を考慮し削除した。



平成十六年
四月十八日
桐



平成十六年
四月十日
桐

桐 隆一
和風絵本の試作「ピクニキ〜」
2006年
142×142mm
墨・美濃紙・落款
特別研究助成金交付出版物